

★ 果樹カメムシ類(チャバネアカカメムシ) 情報 ★

予察灯、フェロモントラップへの誘殺が増えています。
今後の発生に注意してください。

本年のチャバネアカカメムシの越冬量は、京丹後市、京都市及び南丹地域ともに平年比やや少ない状況(表1)でした。

しかし、5月に入り、チャバネアカカメムシの予察灯への誘殺数は京田辺市、亀岡市で平年比やや多くなっています(表2)。

また、チャバネアカカメムシのフェロモントラップへの誘殺数が亀岡市では過去10年で最も多くなっています。京田辺市では平年並、京丹後市では平年比やや少ない誘殺(表3)ですが、今後、夜温が高い日にはカメムシ類の活動が高まり、果樹園への飛来が多くなることも考えられます。

以下の防除上の注意事項を参考に、カメムシ類の発生に十分注意してください。

表1 チャバネアカカメムシの越冬状況

地域	本年	平年値
京都市及び南丹	0.20	0.32
丹後	0.00	0.21

※ 平均生存個体数(頭/地点)

表2 チャバネアカカメムシの予察灯への誘殺状況

場所	本年	平年値
京田辺市	2	0.4
亀岡市	1	0.4
京丹後市	2	4.5

※誘殺数：5月第1半旬～5月第3半旬の合計値

表3 チャバネアカカメムシのフェロモントラップへの誘殺状況

場所	本年	平年値
京田辺市	0.0	0.4
亀岡市	39.0	5.2
京丹後市	0.4	1.5

※誘殺数：5月第1半旬～5月第3半旬の合計値



写真1 フェロモントラップに誘殺されたチャバネアカカメムシ成虫
(於：亀岡市)

防除上の注意事項

- (1) 特に、山林等の隣接園では注意が必要です。幼果を吸汁されると落果するので、園内外の成虫の発生状況などをこまめに観察し、発生を認めたら早めに防除してください。
- (2) カメムシ類は夜行性ですので、夕方の防除が有効です。
- (3) 合成ピレスロイド剤の連用は、ハダニ類やカイガラムシ類が多発する恐れがあるので避けてください。
- (4) 防除薬剤を使用する際は、使用基準を厳守してください。